

## 献 辞

経済学部長 清 野 良 榮

経済学部教授であります、望月清人教授はこのたび、めでたく御退職の年を迎えられました。先生は、昭和31年4月に本学の前身でありました松山商科大学商経学部選任講師として赴任され、以来、46年間にわたり本学での研究・教育に携わって参りました。約半世紀に近い時間をこの大学でお過ごしになられた計算になりますから、松山大学のことなら何でも知っておられるのではと思われま

す。先生の専門研究分野は、巻末の沢山の業績を見られますと一目瞭然であります。社会政策論あるいは労働経済論が先生の御専門でございます。本学の担当科目は、社会政策論であり工業経済論でございます。

主な学内の行政職を御紹介させていただきます。昭和44年に当時の「経済・経営研究所」の所長を御務めになられました。昭和49年には大学院経済学研究科長の任につかれ、研究科の発展に貢献されました。ついで、昭和54年には経済学部長という重職におつきになられております。

私事にわたって恐縮ですが、先生が経済学部長の時代に私の採用人事がありまして、わざわざ福岡市まで当時教務委員でありました岩林教授とお二人で面接に来て頂いたことを昨日の事のように思い出しております。

その後、昭和56年に学校法人松山商科大学の理事をお務めになられました。学校法人松山商科大学の発展に理事として貢献されたわけでございます。図書館長も2期(昭和63年と平成6年)お務めになられました。研究と教育の傍ら、多くの行政職をこなされ、松山大学の発展に大きな足跡を残されました。

46年という長期にわたって御活躍されたということは、多くの優秀な人材を地域社会に提供してこられたということでもあると思います。先生は、愛媛県

関係のお仕事もお引き受けになられておりますので地域社会で先生のお名前を知らない人はいないのではないかと推察いたします。

さて、いよいよ先生ともお別れの日がやって参りました。教授会の席上での先生のウイットに富んだかつ奇才に溢れた御発言を聞けなくなると思いますと、一抹の寂しさに襲われますが時の流れは待ってくれません。まったく、残念ではあります。おおらかな性格の先生のファンは数多いと思います。

今後の先生の進路等につきましては聞きおよんでおりませんが、どうぞ、お元気で益々の御活躍を祈念いたしております。今後は、社会の目からわれわれ若輩者を御指導頂ければと思います。